

先月までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/04/01

## 各種材料を総点検する時期

通貨ペア	基調		ページ数
<u>ドル/円</u>	➡	「経済指標データ睨み」変わらず 予想レンジ: 116.500 ~ 123.500 円	2 - 3
<u>カナダ/円</u>	➡	日・加・米の金融政策に注目 予想レンジ: 92.000~96.700円	4 - 5

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

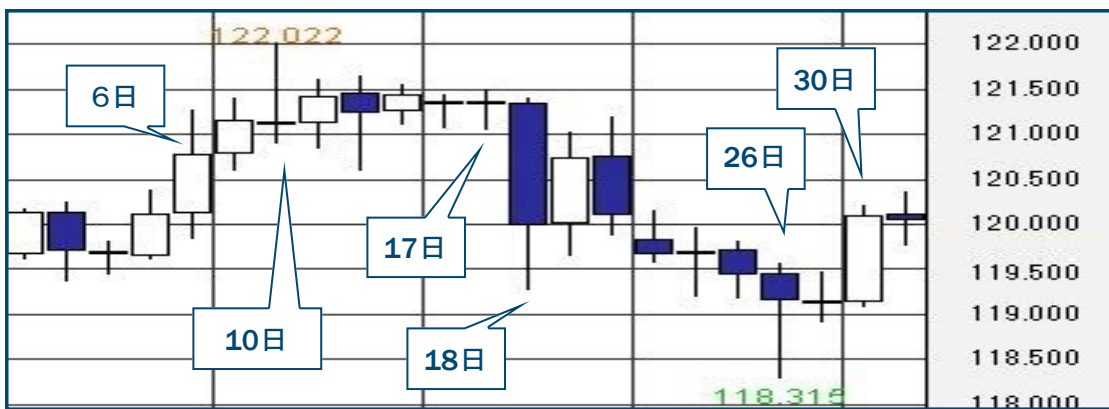
Copyright©2015Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## ドル/円 3月の推移

USD/JPY

3月のドル/円相場は118.315～122.022円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.4%の上昇(ドル高・円安)となった。

ドル/円相場は米2月雇用統計の好結果を受けて、2007年7月以来の高値となる122.022円を付けた。しかし、それ以降は米国でドル高懸念が広がった事、さらに米連邦公開市場委員会(FOMC)を控えて伸び悩み。FOMCでは、声明の「(利上げ開始まで)辛抱強くいられる」との文言削除で最短6月利上げの可能性が示されたものの、経済・金利見通しの引き下げや、米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長の利上げ時期の示唆に慎重な態度を崩さない様子を受けてドル売り優勢に転換した。ただし、米国の金利先高観そのものは根強く、中東情勢不安などがあっても118円台では底堅さを見せた。



## 四本値

OPEN	119.690
HIGH	122.022
LOW	118.315
CLOSE	120.074

6日	米2月雇用統計は失業率が5.5%(市場予想:5.6%)、非農業部門雇用者数は29.5万人増(同:23.5万人増)、平均時給は前月比+0.1%(同:+0.2%)、労働参加率62.8%(同:62.9%)、不完全雇用率は11.0%(前月:11.3%)との結果となった。概ね良好な結果に、発表後はドル高が進行。ドル/円は121.279円まで値を伸ばした。ただ、この雇用統計を受けて早期利上げ観測が強まり、NYダウ平均が下落すると、ドル/円も上げ幅を縮めた。
10日	日経平均が堅調に推移する中で断続的にドル買いが入ると、ドル/円は2007年7月以来の高値水準となる122.022円まで上昇した。しかし、米長期金利が低下した事が重石となった上、米大統領経済諮問委員会(CEA)のファーマン委員長が「強いドルは逆風」との見解を示した事が重石となり、ドル/円は失速した。
17日	日銀は金融政策の据え置きを発表。黒田日銀総裁は記者会見にて「需給ギャップはゼロ程度に改善」「物価2%を2年を念頭に出来るだけ早期に実現する方針に変わりはない」「消費者物価について、エネルギー動向次第で若干マイナスとなる可能性は排除出来ない」「仮に一時的に物価がマイナスになっても、物価の基調自体で判断」「物価の基調は確実に改善している」「株式市場で、今のところ行きすぎや過熱感があるとは思わない」などと発言した。物価の伸び率がマイナスになってもすぐに追加緩和を行わないだろうと受け止められると円買い優勢になったが、反応は一時的だった。
18日	FOMCが声明で、利上げまでの時間軸を示す「忍耐強くいられる」との文言を削除し、最短で6月の利上げの可能性を示した一方、経済・金利見通しでは成長率と物価見通しの引き下げに加え、政策金利見通しも2015年末が0.625%(12月見通し:1.125%)に引き下げた。さらに、イエレンFRB議長が「忍耐強くいられる」の文言削除について、「今回のガイダンスの修正が、我々が利上げのタイミングを決定した事を意味していると解釈されてはならない」「インフレ見通しで大幅な下方修正があった。長期失業率見通しも引き下げられ、FRB当局者が現時点で、従来の想定より多くのスラック(緩み)が経済に存在すると判断した事を示している」などとした。総じてハト派的な印象が強くなり、119.296円まで下値を切り下げた。
26日	サウジアラビアを中心とする中東諸国がイエメンの反政府勢力に対して空爆を開始した事を嫌気して日経平均が軟調に推移。ストップロス断続的に巻き込んでドル売り・円買いが続き、一時118.315円まで値を下げた。
30日	中国の景気刺激策への期待から欧州株が堅調かつ米長期金利が上昇すると、ドル/円も上昇。さらに、米2月PCEコアデフレーターが前年比+1.4%(予想:+1.3%)、米2月中古住宅販売成約が前月比+3.1%(同:+0.3%)と、予想を大幅に上回ると、120.20円台まで切り戻した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## USD/JPY

## 米2年債利回

OPEN	0.6283%
HIGH	0.7314%
LOW	0.5282%
CLOSE	0.5551%

## 米10年債利回

OPEN	2.0034%
HIGH	2.2575%
LOW	1.8506%
CLOSE	1.9231%

## 日経平均

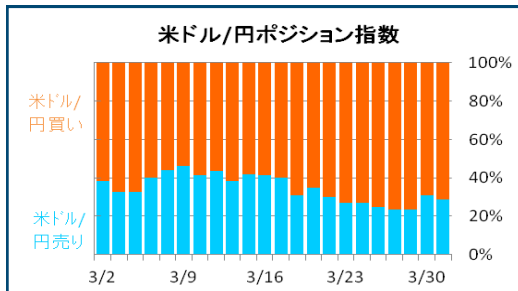
OPEN	18869.40
HIGH	19778.60
LOW	18577.06
CLOSE	19206.99

## NYダウ平均

OPEN	18134.05
HIGH	18288.63
LOW	17579.27
CLOSE	17776.12

## 3月のポジション動向

## 4月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米3月雇用統計(3日)
- ・日銀金融政策決定会合(7-8日)
- ・米FOMC議事録(8日)
- ・日銀金融政策決定会合議事要旨(13日)
- ・米3月小売売上高(14日)
- ・米3月消費者物価指数(17日)
- ・日本3月通関ベース貿易収支(22日)
- ・米第1四半期GDP・速報(29日)
- ・米FOMC(28-29日)
- ・日銀金融政策決定会合(30日)
- ・米利上げ時期に関する要人発言

## 4月の見通し

3月のドル/円相場は米2月雇用統計の好結果などを受けて米早期利上げ期待が強まり122円台まで上昇したものの、FOMCで発表された経済・金利見通しの下方修正などを背景に期待がしぼみ、軟化した。

足元の日本については、当面のところ追加緩和が行われる気配がなく、4月の日銀金融政策決定会合は注目こそされても、ドル/円に大きな方向感を与えるとは考えにくい。4月のドル/円はあくまでドル主導のものになるだろう。

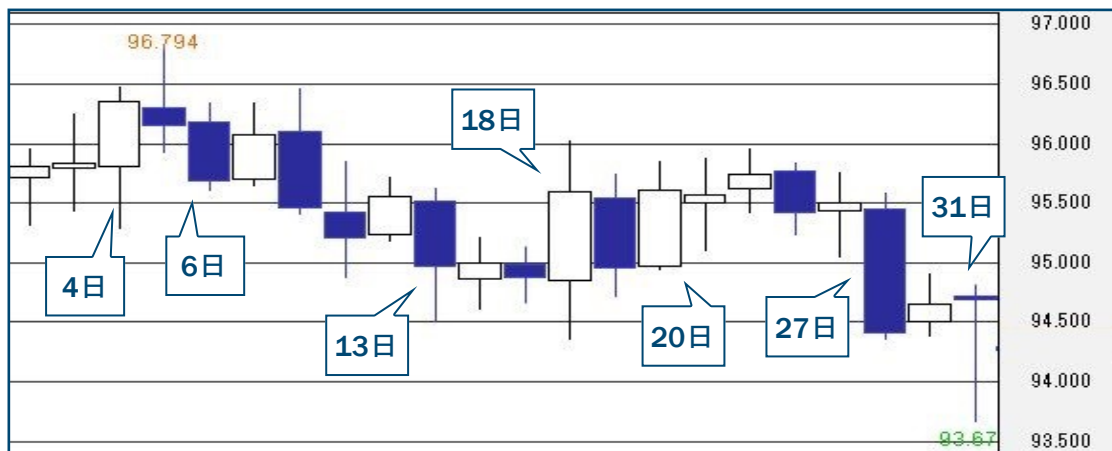
ドルに関しては4月も引き続き、FOMCの利上げが6月なのか9月以降なのか、各種経済指標や要人発言などから窺っていく展開になるだろう。3月末時点では、市場の見方は9月利上げ説にやや傾いている。それぞれの内容を確認しつつ、また、4月28~29日のFOMC声明の内容などから、6月利上げ説が濃厚だと再び受け止められるような事になればドル高、やはり9月以降になるとの見方が強まればドル安、という流れになりそうだ。経済・金利見通しの発表やイエレンFRB議長の会見が予定されていない4月FOMCの声明において、慎重派のイエレンFRB議長が利上げ時期を明確に示唆するような分かりやすい文言を声明に載せるかは疑問だが、6月に利上げをするつもりであるならば、これまでよりも利上げを正当化できる経済環境であることを指摘する景気判断などを出してくるものと考えられる。他方、これまでと同様、あくまで慎重に「経済データ次第」とするならば、「6月利上げは困難」と見る向きが増えそうだ。(石川)

(予想レンジ: 116.500~123.500円)

## カナダ/円 3月の推移

CAD/JPY

3月のカナダ/円相場は93.678～96.794円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.0%の下落（カナダドル・円高）となった。カナダ中銀（BOC）による追加緩和観測が後退した事を受けて5日に約1カ月半ぶり高値を付けたが、後が続かなかった。米連邦公開市場委員会（FOMC）を受けて米国の早期利上げ期待が後退したためドルが反落し、カナダドルに買い戻し圧力がかかる場面もあったが、中東情勢緊迫化への懸念から一時上昇していた原油相場が、早々に反落した事からカナダドルの上値は重かった。



### 四本値

OPEN	95.718
HIGH	96.794
LOW	93.678
CLOSE	94.698

4日	BOCは政策金利を0.75%に据え置くと共に声明で「インフレリスクはより均衡」「現在の政策が適切と判断」などの見解を示した。政策金利の据え置きは予想通りであったものの、声明から中立姿勢が感じられたため一部にくすぶっていた追加利下げ観測が後退。これを受けてカナダドル買いが優勢となった。
6日	米2月雇用統計が予想以上に良好だった事から、米国の早期利上げ観測が再浮上したためドルが全面的に上昇。ドルに対して円安が進んだ一方、それ以上のペースでカナダドル安が進行したためカナダ/円は下落した。米国株や原油価格が下落した事も重石となった。
13日	加2月雇用統計で失業率が6.8%に悪化（予想6.7%、前回6.6%）。雇用者数は前月比0.10万人減と予想（0.50万人減）ほど減少しなかったものの、前月の3.54万人増を大きく下回った。これを受けてカナダドル売りが強まると94.50円台まで下落した。
18日	米連邦公開市場委員会（FOMC）が、政策金利見通しや物価見通しを引下げた事から、FOMCが利上げを急いでいないとの見方が広がるとドルが全面的に下落。これを受けて原油価格や米国株が上昇したため、カナダドルは円以上に上昇し、一時96円台を回復した。
20日	NY原油先物が一時46ドル台に上昇する中、米FOMC後のドル売り・カナダドル買いが継続し、カナダ/円にも買いが波及。加2月消費者物価指数が前月比+0.9%と予想（+0.8%）を上回った事もカナダドル買い材料となった。
27日	サウジアラビアによるイエメンの武装勢力に対する空爆開始を受けて前日に52ドル台まで上昇していたNY原油先物が、48ドル台へ反落すると、カナダドル売りが活発化した。18日の米FOMC後のドル売りに対する反動からドル高・カナダドル安が進んだため、これに連れた面もあった。
31日	NY原油先物が47ドル台前半まで下落する中で、カナダ/円にも下落圧力がかかり93.678円まで下落した。しかし、イランの核開発協議を巡る不透明感が漂う中でNY原油先物が一時反発した上に、加1月国内総生産（GDP）が前月比-0.1%と予想（-0.2%）ほど減速しなかった事から94円台に切り返した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

加10年債利回り

OPEN	1.340%
HIGH	1.629%
LOW	1.271%
CLOSE	1.357%

N Y 原油

OPEN	49.45
HIGH	52.48
LOW	42.03
CLOSE	47.60

NYダウ平均

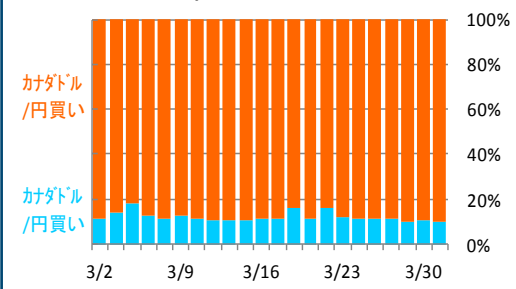
OPEN	18134.05
HIGH	18288.63
LOW	17579.27
CLOSE	17776.12

3月のポジション動向

4月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

カナダ/円ポジション指数



- ・日銀短観(1日)
- ・日銀金融政策決定会合(7-8日)
- ・3月加雇用統計(10日)
- ・3月加住宅着工件数(10日)
- ・3月中国貿易収支(13日)
- ・加中銀政策金利発表(15日)
- ・2月加小売売上高(17日)
- ・3月加消費者物価指数(17日)
- ・4月HSBC中国製造業PMI速報(23日)
- ・米FOMC(28-29日)
- ・日銀金融政策決定会合(30日)
- ・2月加GDP(30日)
- ・原油相場など国際商品価格

4月の見通し

3月のカナダ/円は97.369円(昨年12月高値106.496円から今年1月安値91.728円までの下落幅の38.2%戻し)を突破できずに終わった。1月の大陰線、2月の小陽線に続き、3月は小陰線を出現させており、反発力の乏しさが窺える。月足チャートからは、3月高値(96.794円)を超えられない限り、2月安値(92.043円)や1月安値(91.728円)をメドに下落を警戒すべきように思える。

材料面で注目すべきは、カナダ中銀政策金利発表と日銀金融政策決定会合に、米FOMCも加えた日・米・加の金融政策イベントだろう。日銀については、2月全国消費者物価指数が消費増税の影響を除けば前年比で横ばいに留まった事から、追加緩和観測がくすぶり続けている。それだけに、展望リポート(経済・物価見通し)が発表される30日の会合は特に注目されよう。また、カナダ中銀については、追加利下げの可能性は大きく低下しているものの、米国に引っ張られる形での早期利上げにも慎重な姿勢を示しており、そのスタンスがどちらに傾くのか注目される。米FOMCに関しては、声明発表後の株式・商品市場の反応がカギを握るだろう。もし仮に、FOMCが6月利上げにGOサインを送るようなら、主要国株価や原油価格が下落する公算が大きく、カナダドルも下落する可能性がある。反対に、利上げを急がない姿勢が示されれば、株価や原油価格と共にカナダドルが上昇する事になろう。カナダ/円は引き続き、米ドル/カナダドル相場に連れる場面が多くなりそうだ。(神田)

(予想レンジ: 92.000~96.700円)